

2020年4月3日

埼玉大学経済経営系大学院に在学される方および入学される方へ

新年度のごあいさつを申し上げます。

今年度も実り豊かな1年になりますよう、よろしく願いいたします。

ところで、皆さま、周知のように、新型コロナウイルスによる問題は、その深刻さを増しております。たとえば、さる4月1日に開かれた、国の専門家会議においては、「我が国では、今のところ諸外国のような、オーバーシュート(爆発的急増)は見られていないが、都市部を中心にクラスター感染が次々と報告され、感染者数が急増している」という認識が示されました。この認識をふまえ、専門家会議は、全国を三つの地域に分けました。そのうち、もっとも問題の深刻な「感染拡大警戒地域」に対しては、いわゆる3つの密を避けるとともに、10名以上が集まる集会・イベントへの参加を避けるように求めました。そして、その次なる「感染確認地域」に対しては、同じく3つの密を避けるとともに、屋内で50名以上が集まる集会・イベントへの参加を控えるように提言しました。わが大学院は、本校が東京に程近いさいたま市に、東京ステーションカレッジが神田に立地しており、その構成員の多くが首都圏で生活を営んでいます。東京ステーションカレッジのある神田は既に感染拡大警戒地域と分類されており、本校のほうもいつ感染確認地域から感染拡大警戒地域に変更されてもおかしくない状況におかれています。

このように、大学院をめぐる環境は、間違いなく厳しいものです。それも、正直に申しまして、当分改善される余地はあまりありません。しかし、大学院の使命は、教育と研究をしっかりと担うことであり、どのようなことがあろうとも、これはきちっと果たさなければなりません。私たち大学院経済経営系教職員は、日々努力を積み重ねている皆さまが、新型コロナウイルスという障害物のせいで、誰一人後ろに取り残されないようにするため、全力をもって皆さまをサポートする所存です。

その一環として、4月27日から開始される授業を、基本的にはオンライン型の授業で行うことにいたします。実は、オンライン授業については、私たちも大いに悩みました。皆さまにとって、通常とおりのキャンパス生活ができなくなるだけでなく、オンライン授業に必要な機材やネット環境整備のほか、慣れないオンライン授業からもたらされるかもしれない心身のストレスなど、余

計な負担をおかけすることになるからです。なお、オンライン授業を準備・実行するには、教職員側にも結構な労力が求められます。

問題は、負担だけではありません。教育とは何かという本質的な問いを立てた際、わが大学院は、教える側と教わる側がともに考え、ともに議論し、創造的な解決策をともに生み出すことを大学院の基本としてまいりました。このことに鑑みますと、オンライン授業は対面型の授業に比べ、さまざまな制約を受けることとなります。むろん、可能な限りその制約を省くべく、大学院として最善を尽くしますが、オンライン授業が最善の選択肢でないことは否めません。にもかかわらず、今般オンライン授業を行うこととしたのは、皆さまと大学構成員全員の健康を守りながら、皆さまに必要な教育を提供するためには、現在の状況下ではこの方法しかないと、決意したにほかありません。

それで、皆さまにお願いです。

まず、授業が始まるまでに、パソコン(可能であれば、カメラやマイクがついたもの。もし、パソコンの入手が難しい場合は、タブレット端末のものも可。)と自宅のネット環境を整えておいてください。特にインターネットの場合は、申込みから使えるまで数週間かかるケースもありますので、新たに環境を整備される方は、早めに手配するようにお願いします。何かの障がいやオンライン授業に困難を抱える方や、上記機材とネット環境の整備が不可能な方は、大学院係宛にご相談ください。

次に、Web学生システムにできるだけ定期的アクセスし、大学院との情報受発信に漏れがないようにしてください。今後は、大学院のホームページと大学院のメール、そしてWeb学生システムを通して、皆さまとの基本的な情報の共有をはじめ、オンライン授業を行っていくこととなります。

皆さま、厳しい時期ではありますが、これを「塞翁が馬」にして、ぜひ実り豊かな大学院生活を築き上げていきましょう。皆さまのご健康がもっとも大事です。皆さまご自身のために、それから家族や知人、周りの方々のために、くれぐれもご自愛ください。

皆さまにお会いし、あるいは再会できる日を心より楽しみにしております。

埼玉大学経済学部長

禹宗杭